

第 33 回日本診療放射線技師学術大会
北海道シンポジウムに参加して

華岡青洲記念心臓血管クリニック 山口隆義

皆様、こんにちは。華岡青洲記念心臓血管クリニックの山口です。今年の日本診療放射線技師学術大会は、北海道の函館市にて 9 月 23 日(金)~25 日(日)の 3 日間で開催されました。北海道診療放射線技師会に関わる多くの皆様が、様々な立場に関わり大変ご苦勞されたものと思います。

私の役割は 3 つで、プログレッシブセミナー「Dual Energy CT の臨床応用」の座長、一般口述発表「X 線 CT 検査」の座長、そして、市立旭川病院の川崎さまと札幌医大の小倉さま座長のもと開催された「北海道シンポジウム 2、心臓領域における定量診断技術の現状と未来」のシンポジストでした。そのシンポジウムですが、最初に、基調講演として北海道大学病院の真鍋先生から CT および MRI の定量評価の現状に関するご講演がありました。その後、各モダリティからの話となった訳ですが、心臓エコーではストレイン、各医学からは心電図同期 SPECT および Heart Risk View、MRI ではストレインや T1 map/ECV を取り上げていました。CT では他のモダリティでは既に行われている心筋 perfusion といった所ですが、基調講演で素晴らしいご報告がありましたので、私からは CT-FFR および心筋セグメンテーションと late iodine enhancement(LIE)の定量評価の可能性についてお話しさせて頂きました。数字で判断できる評価方法は臨床現場で受け入れ易く、どんどん普及するかと思われませんが、その限界や問題点も理解した上で利用していくのが肝要とも思われました。このシンポジウム、各演者の内容が素晴らしく、この 1 回で終わらせるのは“もったいない”と感じました。どこかでまたご一緒できると嬉しいです。

今回の函館開催では、演題登録数も多かったようです。私の知り合いの中には、わざわざ仙台空港まで飛行機で、そこから函館までは新幹線に乗ってきたという人もおり、みなさん、とても楽しそう

でした。また、函館の“活イカ”は大人気で、私も会期中にお付き合いで6回位食べました。雨に降られた日もありましたが、最終日は快晴で（写真参照）、結果よければ全てよしといった感じで帰って参りました。

私自身、これまで診療放射線技師学会への参加は、殆ど出来ておりませんでしたので、今回とても新鮮な感じを受けました。技師会で行われている様々な取り組みであったり、そこに関わる皆さまの考え方などを身近に感じる事ができました。これからも、機会があれば参加したいと思っています。



函館の港から見える函館山：よさこいソーランの練習もしました。